

- 五. 本会主催事業に関する運営をさらに効率よく刷新する。大会実行委員会の活躍がさらに期待される。
- 六. 本会協賛事業、共催事業に関して出来るだけの協力とサポートをする。
- 七. 法人組織運営の発展の為、適切な人材の発掘と確保をする。
- 八. 会員サービスを充実させ、会報・ホームページ等による広報活動のみならず、メディアを通じた渉外活動も促進する。
- 九. 国際的なイベントや事業に関してさらに内外に理解を広める。
- 十. 長期的な事業プランを設定し、戦略的に対応していく。寄付活動も促進する。

これらの課題を考えると本会の未来的展望は非常に明るい。法人化した事により、新しいエネルギーと活力で全面的に前向きに発展している事は確かである。

国内外において現在日本国に対する関心は非常に高い。確かにアベノミクスの経済指標や医学界におけるIPS細胞研究などの新発見などは世界中の国々が高い関心を持つところだが、それよりも彼らの一番の関心事は日本の日本人による日本の為の精神文化を我々がどうするかである。武道を志す人間にとってこれほど厳しい指摘はない。現在も未来も社会学的ダーウィン主義の自然淘汰説はいかなる国家や組織にも該当される。もし我々がそれに甘んじてその淘汰を許してしまふのであれば、崩壊の憂き目にあう事は間違いない。時の流れや時代に適応するだけでなく、自ら変革していく再生創造の力がなければ、活性化は見いだせない。その意味で今は御逝去された総裁が残された襲古還新の精神を再度顕彰し、ここから始まるとして第一歩を踏み出

した一般社団法人大日本武徳会の確固たる原点に、今後いかなる時にも常に戻る必要があると思われる。

被災地復興を願い奉納演武

英信館 桶田 正信

東日本大震災から、間もなく三年を経過しようとしています。

直後の三月二十七日、我英信館道場で被災地支援プロジェクトの結団式を行い三月三十日物資の搬送第一便が岩手県釜石市、大槌町へスタートして今日迄八十便を迎える事が出来ました。

当初より携わって下さったボランティアさんは四〇〇〇人を超え、お届けした物資も一五、〇〇〇箱を超え、支援の輪も更に大きく広げる事が出来ました。

二年目には、物資の搬送に加え、自立支援の為に被災地の特産品を販売する物産店をオープンし、更に三年目に

